

令和2年7月6日
政策推進室政策推進担当

第5回検討委員会については、当初令和2年3月26日開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により延期となっており、書面会議での開催といたしました。

1. 開催方法：書面会議（資料を配布し、各委員から意見シートにより意見聴取）
2. 回答期限：6月4日（木）
3. 傍聴の可否について
書面会議であったため、傍聴不可
4. 審議：（1）配置計画について
（2）平面計画の検討について
（3）2020年度の進め方

5.内容（結果）

【審議（1）について】委員意見

- ・継続的に検討するにあたっての視点は具体的に示すことはできないのか。
- ・配置検討案Ⅲを推奨する理由と課題
推奨の理由：校舎と体育館、公共施設＋（民間施設）をまとめて配置することで、建替えに係わる費用の圧縮と一貫工事として期間短縮が期待出来る。
仮説校舎無で建設可能。
セキュリティ上、小学校と公共施設が近接して関係、同一業者で一括の管理が可能。
グラウンドのゴムチップ、人工芝化は反対です。学校開放の一環として、多目的競技や球技場やイベント会場として使用、利用できる場所は必要。砂、土の上で走り回り、健康管理から教育上、必須です。同上のグラウンド施設管理、運営で「雨水対策」は必須で、配管等でグラウンドの中心から放射線に傾斜（斜度は計算）してはどうか。
グラウンド回りの緑化や樹木は、常に剪定作業が可能な高さで制限してはどうか。
課題として、北面側、東面側の騒音対策は、十分な説明と理解と協力が必要です。現状のグラウンドと一般道路に高低差があるが、東側住民よりグラウンド内の砂が一般道に吹き込むことの苦情が多かった。
- ・日照面で大差がなければ、費用・工事期間等の面から、コストパフォーマンスのすぐれた方を選択するのが合理的と思います。
- ・他の要素も含めて継続的に検討するということには賛成する。いろいろ気になる点もあるので、別紙として添付した資料も参考にさせていただきたい。
- ・SDGsに取り組んでいる三芳町として、これだけの大開発をするのであるから、将来を見据えた開発をすることが必要。今回のコロナ騒動で教育の在り方も大きく

変化すると思う。IT化が進む中で、未来を感じさせる教育対策の進んだ全国に誇りうるモデルケースになるような小学校を検討していただきたい。

- ・複合施設については、どの案も真四角の建物になっているが、道路に沿って長方形の建物は考えられないか。学校への影響も少なくなると思われる。多世代の交流は建物中だけではない。外部に緑地帯と広場のような場所はどうしても必要です。
- ・校庭の配置は日照・日陰による校庭の水はけ、湯きなどが論点になると思いますが、校舎（特に教室）にあたる部分が夏場に日照により気温が高くなりすぎないか、風通しなども検討しつつ進めるとよいのでは？と思います。
- ・教育関係者の意見を重視して欲しいと思います。
- ・案Ⅲは、普通教室を南側としても、公共施設の影が多くの時間、教室にかかるため適さない。校庭も多くの時間、校舎の日陰となることが心配である。
- ・案Ⅱで校舎をL字にしないで、当初の案Ⅰのように一列4階建てとして、体育館を校舎西側に付けて建てることはできないか。
- ・校庭はいずれの場合も、全面ゴムチップまたは人工芝にすることが必要。
- ・校庭が土でなくなるのは、少年スポーツチームの利用に支障が出ることを懸念します。
- ・この方針に賛成します。

【事務局回答】

- ・配置案による条件において、学校の校庭及び普通教室の日照について多くご意見をいただきました。
- ・配置案の検討については、全ての条件が良となる絶対的な案がない中、
 - ①条件のどの部分を重視するのか。
 - ②問題となっている部分をどのようにフォローするのか。
 - ③基本計画段階で、どこまで案を絞り込むのか。といった点が重要になってくると考えます。
- ・今回、各委員からいただいたご意見を基に、基本計画に落とし込む内容などを精査し配置計画案の取りまとめとして、町の考えをお示しします。

【審議（2）について】

- ・学校とその他施設が複合している施設の事例を紹介してほしい。
- ・会議室等貸スペースの共有による効率化だけでなく、複合化することによって想定される活動イメージを提示してほしい（特にコミュニティスペースの活動）。・既存の本の貸出+レファレンスサービスに留まらない今後の図書館の機能のイメージを共有したい。
- ・完成後の環境への負荷等に関する視点は考慮しないのか。
- ・課題：時刻日影図による午前中の日影時間帯が少ないので、校舎棟をグランド側に寄せ、公共施設間との導線を広く取り、南面側の日照と採光を多く取る（普通教室南東向窓は全面カーテンウォールサッシ案）で西側教室のルーバー工事の経費削減を計る。
- ・校舎棟（1,790㎡）の体育館側（1000㎡）1階駐車場は半地下にして、給食車両の給食室への導線は確保しつつ、公共施設の駐車場と共有する。一般車両はすべて西側パーキング場で、鉄骨造の2階～3階建にして、駐輪場と共同の有料運営で民間業者に委託する。（土地等は入札で売益）

- ・公共施設（3590 m²）＋民間施設（2400 m²）で同一建物、高さで、中は間仕切りタイプで、多目的スペースで配置する。民間施設は業種に限定せず、多目的に運営させる。
- ・校舎前広場、公共施設前広場は歩行者専用導線として、乳幼児、高齢者、身体的弱者を優先した敷地として、ミニイベントも可能な広場にして欲しい。
- ・普通教室の配置については、実際に使用する学校関係者の意見・要望を十分に傾聴して決めることが大切。
- ・図書館関係者の立場からは、前回までに要望した（1）閲覧席数と（2）管理諸室の十分な検証に加えて（3）コミュニティスペース（1階）やホワイエ（2階）の利用・活用の仕方について、より具体的な検討を行うよう希望します。
- ・配置の上で懸念されるのは、脱プラ対策、防災対策。
- ・別紙に記載したが、人工芝はマイクロプラスチックを発生させるので検討から外してほしい。多分近い将来に禁止される可能性もある。
- ・口の字型の校舎は、1階で火災等が発生した場合、内廊下は使えるのか、外側にベランダ様の物はあるのか、非常時の避難場所として、電源確保や水道、トイレ確保対策は考えておくこと。
- ・共生社会を目指す三芳町で、障がい者やLGBTの方にも配慮した設計を望みたい。トイレは男女別にしないで、広く明るい場所にすることも考えられる。
- ・示された平面図は、比較的部屋が仕切られた感があるが、可動式の壁などで融通の利く配置も考えられる。
- ・複合施設（公共施設部分）として複数の組織・機関が入ることで、竣工時～の建物防火管理者をどうするかを同時に検討、調整しておくと思えます。
- ・社協は住民への貸出物品（車イス、高齢者疑似体験などの福祉教育備品、ポップコーン機、綿あめ機などのイベント備品など）を多く所有しており、広場や駐車場一角に物置の配置は検討できないでしょうか？
- ・「複合施設の基本的な考え方」「核となる施設サービス」の部分で【社協・ボランティアセンター・ボランティア活動】として、コミュニティイベントスペースとのつながりをイメージするとよいと感じています。コミュニティスペースでの交流や情報コーナーからボランティア活動につながるがあると思えます。
- ・普通教室の位置に付いても教育関係者の意見をよく聞いて検討ください。
- ・平面モデルの中で、職員室、校長室等は管理・保安上の観点から2階が望ましい。
- ・会議室、相談室のスペースを多く確保したい。
- ・複合施設の良さを生かして、柔軟な使い方を重要視してほしい。各部屋やスペースは複合的に使えるようにしてほしい。
- ・学校内にもセキュリティを考えたうえで、3世代が集えるようなスペースを実現してほしい。
- ・最近の民間施設でも社会貢献を求められていることを踏まえて、民間施設の中にも、ボランティア活動の何らかのスペースが出来るよう、交渉し、実現させてほしい。
- ・駐車スペースの確保も非常に重要な問題です。効率的な用途別の配置など考えてほしいと思えます。
- ・新しい諸室にコワーキングをいれていただいたこととても感謝いたします。ありがとうございます。三芳でもNPO活動等している方がいらっしゃいますし、これから

もっと増えることを願って、これは是非設置していただきたいです。欲を言えば、wifi環境、カフェコーナー等あれば尚うれしいです。豊島区にある RYOZANPARK がとても素敵ですのでご参考に。 <https://www.ryozanpark.com/work/coworking-spaces/>

- ・前回資料のイメージを拝見すると町のイメージと私のイメージは遠からずかなと思っていますが「全世代型三芳町拠点」になるのが、理想だと思っています。子どもから高齢者まで、さらに縦だけでなく横のダイバシティ（障害のある方等）も確保するため、バリアフリー構造などに配慮していただけるとなお素敵だなと思います。

【事務局回答】

- ・諸室リスト（平面プランのサイズ感等）については、反対意見はありませんでした。その中で、施設の実際の利用形態やそこで提供されるサービス、活動などに対するご意見を多くいただきました。
- ・今年度は、そういった施設のサービスに直結する運営方式の検討と民間活用の範囲などを検討、決定していきます。その中で、利用者や住民が望む施設の姿を実現する運営や民間連携などを検討していきます。
- ・また、平面プランの検討と並行し、事例や町が考えるビジョンなどから、より具体的にどのような活動ができる施設になるのかなどのイメージをお示しします。
- ・今後の施設検討の上で重要な、コロナ禍、アフターコロナの新しい生活様式、防災対策、ICT化への対応など、将来を見据えた視点での施設検討が必要だと考えます。今はまさにそういった時代変化の過渡期にあり、まだ明確な正解はない中ではありますが、将来にわたり長く住民生活に寄与する施設像を模索します。

【審議（3）について】

- ・資料6の表現では、今年度の各段階で何をどの程度のレベルで検討するかわからない（基本計画と言われても委員のみなさんはわかるのだろうか）。
- ・完成までのスケジュールの中でどの段階までに何を決めるか、またどのような方法で検討するのか（市民参加の方法など）を示す必要があるのではないか。
- ・現状の新型コロナウイルス感染拡大防止の為、スケジュール通りにいかない訳ですが「次年度スケジュール案」推移してください。
- ・事業予算が60億円とも試算されている中、建築計画（平面、立面、断面）の検討と概算書を提示していただきたい。
- ・複合化による各施設の想定規模（13施設）にこだわる事ではなく、共用施設部分の共同利用や、施設間の円滑な相互利用で管理の合理化は必要です。施設の削減や縮小も視野に入れて検討する事も必要と思います。
- ・コロナ騒動の中で新しい視点で考えなくてはならない課題もできたと思われる。全体的に遅れても仕方ないので、十分に検討を進めていただきたい。
- ・今回意見をまとめるうえで、周りの方たちに意見を聞いたが、この開発自体を知らない人が多かった。説明会だけでは出席できなければ知らないままになってしまうので、HPやチラシなどで、少なくともこうした検討をしていることを随時知らせていただきたい。
- ・ふれあいセンターの機能が入るか入らないか、またその規模によっては、配置計画に影響があると思いますので、先に（早めに）整理しておくともよいかもしれません。

- ・商工会及び関係団体のスペースの具体案を提示して欲しい。
- ・商工会としては最低でも現状のスペースが必要なのと、家賃に付いてもあまり高額では払えなくなるので、どの様に考えいらっしゃるのか教えて欲しいと思います。
- ・案Ⅰは検討から外れたのでしょうか。
- ・コロナの影響は今後も続くと思われませんが、やはり顔を見ながら、事務局の説明を聞き、皆の意見を出し、検討するという状況で行ってほしいと思います。大きな会場の確保が大変でしょうが、よろしくお願いします。更に、数日前に資料の提供(メール可)を受け、読み込んだ状況での開催をお願いします。
- ・スケジュールとしての意見ではないのですが、気になっているのはこの拠点構想の財源はどのように捻出されるのでしょうか？野尻のように合併特例債があるわけでもないのに、打ち出のこづちはないと思っていますが、素人考えでは地方債の起債か住民税の引き上げか、クラウドファンディングか、などと考えているのですが。財源など、センシティブなところは、この委員会の話題ではないかもしれませんが、一町民として気になっておりました。

【事務局回答】

- ・基本計画においては、どこまでの内容を決定とするかによって、今後の事業者からの提案の幅や自由度なども決まってくるため、そのラインを慎重に見極める必要があると考えます。
- ・また、基本計画策定後の基本設計、実施設計段階に、どれだけ利用者や住民の意見を反映できるかなどを評価基準に含めるなど、具体的な検討段階でも意見反映が可能かなども検討します。しかし、これについては、事業費と相対的な関係にあることにも留意が必要となります。
- ・事業費に関するご意見も多くいただきました。これについては、左記の配置や平面、その他の諸条件がある程度調い、モデルプランを作成することで概算の算出が可能となります。モデルプランの作成を進め、概算が出た時点でお示しいたします。
- ・事業の周知については、ご指摘のとおりまだまだ不足しており、今後も継続して進めていく必要はあると考えます。現在の状況下で、多くの住民を集めた説明会等の開催はまだ難しいため、HP や広報紙その他、複数のメディアなどを活用し、周知を図っていきたいと考えております。

【杉崎委員長講評】

今回は、いずれの案についても優劣はなく、新たな視点を加えて継続的な検討をすることになっている。しかし、本来であれば新たな視点を含めて検討した上で意見聴取をするべきであった。

そういった中で委員からは建設コストや小学校の校庭、教室への日照について意見が複数出され、校庭については、舗装方法について、いずれの方法に対しても危惧する意見が出されている。

また、コロナを踏まえた教育の在り方の変化、多様性への配慮など、従来の公共サービスや施設の価値観に囚われない施設の在り方を提案する意見も見られる。

今後は、単に個別機能の集約による効率性を議論するのではなく、コミュニティスペースや核となる図書館で生まれる町民の活動など、新しい複合施設によって、三芳町に暮らす人たちに関係が構築され、新たな生活スタイルが創造されることへの期待を前提とした議論ができることを期待したい。